



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2016年9月発行（第77号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「獣は聖徒に打ち勝つ」 エレミヤ
- ◎証：「世と調子を合わせない」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「獣は聖徒に打ち勝つ」 by エレミヤ

本日は「獣は聖徒に打ち勝つ」という題でメッセージしたいと思います。終末の日に獣の国が聖徒であるクリスチャンや教会に打ち勝つようになる、ということを見ていきたいと思うのです。

獣が聖徒に打ち勝つ、このことは、以下のダニエル書に記載されています。

**“ダニエル 7:21 私が見ていると、その角は、聖徒たちに戦いをいどんで、彼らに打ち勝った。”**

ここで書かれている聖徒ということばは、70人訳のギリシャ語のhagiosということばで、以下のロマ書で使われている聖徒ということばと同じです。

**ロマ8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。**

ここで書かれている聖徒とはクリスチャンのことですから、ダニエル書に書かれている終末の日の聖徒もクリスチャンをさすことがわかります。したがってこのダニエル書が預言しているのは、このような未来です。すなわち、終末の日に獣の国の力が強くなり、クリスチャンや教会がその獣の国に敗れていく、という日が預言されているのです。

このようなことばは、我々クリスチャンの「世に勝つクリスチャン」という常識とは、違います。しかし、聖書に預言されていることなら、これは実現する可能性があります。それでこのことを本日は見ていきたいと思うのです。

<聖書の多くの箇所が終末の日のクリスチャンの獣への敗北を預言している>

さてこのようなこと、終末の日にクリスチャンが獣の国に敗北するという事は望ましいことではないのです。しかし、他にもいくつかの聖書箇所がこのことを預言しています。それを見ていきましょう。

ダニエル8:9～12 の箇所もこのことを預言して

## 「獣は聖徒に打ち勝つ」 エレミヤ

います。テキストに沿って順に見て行きましょう。

**ダニエル8:9 そのうちの一本の角から、また一本の小さな角が芽を出して、南と、東と、麗しい国とに向かって、非常に大きくなっていった。**

**8:10 それは大きくなって、天の軍勢に達し、星の軍勢のうちの幾つかを地に落として、これを踏みにじり、**

この箇所にはたとえが使われています。星の軍勢とは以下のことから理解できます。

**創世記 22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。**

この箇所からわかるように、星の軍勢とはアブラハムの子孫であるイスラエルの民を表すとえなのです。そして新約の時代においては、それは、新約のイスラエルであるクリスチャンをさすたとえです。ですので、「それは大きくなって、天の軍勢に達し」とのことばの意味合いはこういうことです。すなわち、獣の国であるアメリカが強くなり、ついには、教会やクリスチャンにまで影響を及ぼすようになる、ということ語っているのです。

このことは今盛んにアメリカで行われていることです。獣の国アメリカの政府は、教会やクリスチャンの歩みかたに干渉していません。同性愛に反対することは、性的少数者に対する罪であるとして、クリスチャンを迫害し、場合によっては逮捕さえしているのです。軍勢ということばからわかるように、今アメリカで起きていることは戦いであり、戦争なのです。それは、一時的なものでも大統領が変わったからといって中止されるムーブメントでもありません。逆にそれは、用意周到に用意された戦争であり、クリスト教が敗北

し、クリスト教の教理が壊滅するまでは終わらない戦争なのです。

**「星の軍勢のうちの幾つかを地に落として、これを踏みにじり」**

星の軍勢が地に落ちるとは、すなわち、天的な存在であるクリスチャンが地、すなわち、この世的なものに落とされる、ということをととえで語っています。オバマ大統領は、同性婚は合法であると宣言しました。ということは、それに反対するクリスチャンは非合法であり、法を守らない犯罪人であるということになるのです。このようにして、獣の国は法律で脅して教会をこの世的なものへと変えようとしています。聖書に従い、同性婚の司式を拒否する牧師が訴えられつつあります。

**8:11 軍勢の長にまでのし上がった。それによって、常供のささげ物は取り上げられ、その聖所の基はくつがえされる。**

ここで書かれているのは、獣の国が対クリスト教に対して起こした戦争の未来の結果であり、結末です。ここではクリスト教が敗北し、軍勢のトップの座を獣の国に奪われることが描かれています。軍勢の長、すなわち、教会の長は誰か？それはすなわち、王の王であるキリストのことです。すなわち、驚くべきことには、教会のキリストの座が奪われ、その座に獣の国の反キリストが座すようになることをここでは語っているのです。

**「常供のささげ物は取り上げられ」**

常供のささげ物とは旧約の時代においては、穀物のささげものや油のささげものです。たとえの意味合いとして新約においては、穀物は命のパンであるみことばやメッセージに通じ、油は聖霊に通じます。すなわち、その日、教会から、正しいメッセージが取り去られ、聖霊の働きが取り去られることが描かれているのです。

「聖所（神殿）のもとはいはくつがえされ」

ここでは、神への礼拝の場所、神殿としての教会が覆されることが描かれています。

**8:12 軍勢は渡され、常供のささげ物に代えてそむきの罪（罪のささげもの：sin-offering；70人訳）がささげられた。その角は真理を地に投げ捨て、ほしいままにふるまって、それを成し遂げた。**

ここでは、教会において罪のささげ物がささげられるようになることが描かれています。すなわち、罪のあるメッセージが教会で語られるようになることが預言されているのです。具体的には、牧師が聖書が罪であると禁じていることを正しいと容認します。「同性愛は聖書的に全く正しい」「神は同性婚を祝福しておられる」などの冒流的なメッセージが教会で語られるようになるのでしょうか。このようなメッセージは今すでに一部の教会では語られているかもしれません。しかし、これからさらに全世界の教会でこのように冒流的なメッセージが語られるようになるのでしょうか。

さて、黙示録も同じような日、すなわち、教会が獣の国に敗北する日を預言します。（黙示録13：5～7）この箇所を見ていきましょう。

**黙示録13:5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。**

ここでは、獣の国アメリカにけがしごとをいう口が与えられることが描かれています。アメリカはすでに冒流的であり、政府は学校において、軍隊において、公共機関において、神やキリストに関して語ることを禁じつつあります。この傾向はさらに進み、さらに冒流的になっていくのでしょうか。そして、42ヶ月すなわち、3年半の艱難時代もアメリカ主導で始まります。

**13:6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。**

「その幕屋、すなわち、天に住む者たち」とは聖霊の幕屋である天的なクリスチャンをさします。彼らは聖書に従い、同性愛を拒否し、妊娠中絶に反対します。それゆえ、獣の国アメリカは、このような聖書に忠実なクリスチャンを敵視し、ののしり、非難します。これは、すでにアメリカで起きていることです。中絶に反対してデモを行うクリスチャンはこの国で犯罪者呼ばわりされ、逮捕されています。

**13:7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。**

ここでも獣の国が聖徒であるクリスチャンたちに打ち勝つことが描かれています。ですので、聖書は繰り返し、繰り返し終末に関して一つのことを語ります。それは、終末の日に獣の国が対キリスト教、対クリスチャンに対する戦争を起こすことです。そして、その結果、残念ながら、教会もクリスチャンもこの戦争に完全に敗北することです。そして教会におけるもっとも大事な教理は捨て去られ、さらにキリストの座さえ、敵に奪われるという徹底的な敗北をする、ということが書かれているのです。



**信仰に従い、同性婚の許可を出さず逮捕された職員 Kim Davis**

＜何故クリスチャンは敗北するのか？＞

上記の様なことを聖書は語っているように思えます。しかし率直な疑問として、何故終末の日にクリスチャンは獣に勝利を得ることができず、敗北をするようになるのでしょうか？その質問に答えるのに、以下のことが参考になるかもしれません。

**ルカ19:41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、**

**19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。」**

**19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、**

**19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」**

ここには、旧約の神の民であるユダヤ人の都エルサレムが、ローマにより徹底的に破壊される日に関して預言されています。神の民であるユダヤ人が何故、神を知らない異邦人ローマとの戦争に敗北するのか？都も神殿も徹底的に破壊されるような大きな敗北をするようになったのでしょうか？

その理由は明白です。それは、エルサレムに住むユダヤ人たちの罪のゆえです。彼らが神の遣わされたキリストを受け入れず、逆にキリストを捕らえ、犯罪人として有罪宣告を行い、ついには、十字架で殺してしまったからなのです。それゆえ神の怒りは燃え上がり、その怒りの中で、ユダヤ人たちはローマとの戦争に敗北し、都も神殿も徹底的に崩壊してしまっただけです。

そして、同じパターンが終末の日に再現すると思われまふ。なぜなら、終末を預言する黙示録の中に主が大きな都すなわち、終末の背教の教会の中で再び十字架につけられることが預言されているからです。以下のとおりです。

**黙示録 11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。**

ここには、その日、大きな都すなわち、背教の教会が同性愛を受入れソドム化すること、この世の論理を受入れエジプト化すること、そして、その中で聖霊となられた主が十字架につけられることが描かれています。

そして、この終末の日に主の十字架が再現するゆえ、神の怒りが背教の教会に対して燃え上がるのです。それゆえ、教会は獣の国との戦争に対抗することも勝利を得ることもできず、逆に徹底的な敗北をするようになるのです。かつての背教のユダヤ人たちがローマとの戦争に勝つことはできず、逆に徹底的な敗北を喫したようにです。終末の背教の教会も獣の国との戦争に勝つことはできなくなるのです。その敗北は、教会の背教のゆえであり、さらに主を再び十字架で殺し、さらに2人の預言者をも殺すからなのです。終末の日の教会の敗北には理由があるのです。

＜仮庵に入ること＞

このような日、背教の教会が冒瀆的になり、反キリストさえ拝むようになったとき、私たちはどうすれば、よいのでしょうか？以下の箇所がその答えと思われまふ。（マタイ 24:15~18）

## 「獣は聖徒に打ち勝つ」 エレミヤ

この箇所を見ていきましょう。

マタイ 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）

24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

ここでは、教会が背教した日に正しいクリスチャンはどのように対応すればよいのかを語っています。“荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つ”とは教会が背教し、全面的にキリストを追い出し、反キリストを自分たちの神として迎え入れる日のことです。その時に関して、主は「山へ逃げなさい。」との警告を与えています。これは、以下のロトへの警告と同じことばです。

創世記19:17 彼らを外のほうに連れ出したとき、そのひとは言った。「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこでも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」

ここでは、滅ぼされるべきソドムにとどまらないこと、そして、山へ逃げるのがロトに勧められているのです。そして、これは、終末の日においても同じです。私たちはソドム化し、背教化した教会にとどまるべきでないのです。そうでないとともに滅ぼされるからです。そうではなく、背教の教会を出て逃げるべきなのです。

24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

屋上ということばは、以下の屋根の上という言葉と同じです。

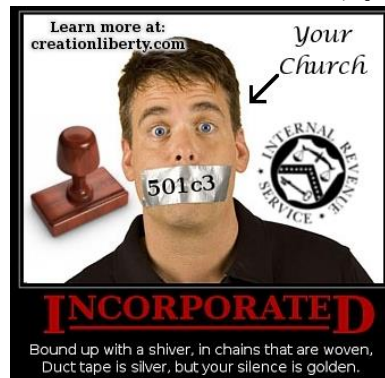
ネヘミヤ8:16 そこで、民は出て行って、それ

を持って帰り、それぞれ自分の家の屋根の上や、庭の中、または、神の宮の庭や、水の門の広場、エフライムの門の広場などに、自分たちのために仮庵を作った。

このネヘミヤ書では、仮庵を屋上（家の上）に造ることが語られています。仮庵は、地下教会のたとえです。ですので、主のいわれた、「屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。」とのことばの意味合いはこうです。地下教会に入ったものは、背教した公の教会に戻るなどの警告です。家の中、すなわち、公の教会でどれほど、良い収入があろうと、良い人間関係があろうとそれを惜しんで戻ってはいけない、という警告なのです。

24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

畑にいて働く者、すなわちみことばの種を蒔くものも家に戻らない、背教の教会に戻らないことが勧められています。ですので、ここで主はたとえを通して繰り返して背教の教会へ戻らないこと、むしろ地下教会にとどまることを語っていることを知しましょう。かつての日、AD70年のエルサレム攻撃の日においても、この主の警告を聞き、背教のエルサレムを出て、山へ逃げたクリスチャンは命を救いました。同じ警告が我々にも与えられていることを知しましょう。以上



税の免除と引き換えに教会を獣政府に従わせる501C3 教会法

## 「世と調子を合わせない」 H.F

「時代を見分けなさい」とルカ12章でイエスがいわれました。では今は、いったいどのような時なのでしょう。今の時代に起きていることをいくつか見て考えていきたいと思います。近年、アメリカではオバマ大統領により同性婚が合法化されました。今、アメリカでは、同性愛に反対することは、法律に反する行為として逮捕されたり、訴えられたりするようになってきました。また、アメリカの学校においても公立学校(小学校~大学)ではトランスジェンダー用のトイレを作ることが法律化されました。また、ボーイスカウト協会は指導者として同性愛者を認めるようになりました。

同性愛者は性同一性障害という障害と考え、その権利を守るという動きはアメリカをはじめ欧州にも広がっており同性愛者同士の結婚が合法化されている国は非常に増えています。つい最近のことですが、イギリスの学校において、同性愛者で男であっても彼Heではなく、女であっても彼女SheではなくZieかTheyと呼ぶように決められました。日本でも、テレビでは同性愛者のタレントが多く出ており人気があります。渋谷区では同性婚の寛容な条例ができています。ドイツでも同性愛をイメージさせたCMが流れています。同性愛を認め、その権利を守る動きは世界的にひろがっています。LGBT(性的少数者)を擁護することがトレンドになっているのです。世はこぞって同性愛を認めはじめていますが、聖書では同性愛についてどのように語られているのでしょうか？

**レビ記18：22 あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである**

**ロマ書1：26～27** こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。

ほかにも、創世記19章1－13節ロトとソドムの町の人々、レビ記20：13、申命記23：17、1コリント6章9節、第二ペテロ2：6～7、ユダ7があります。聖書は一貫して同性愛は罪であると書いているのです。神の言葉と人のつくる法律どちらに信頼性があるのでしょうか。世の価値観はこころ変わります。

**マタイ5：18** まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。

**イザヤ40：8** 草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠にたつ。

とありますように、この世のものと違い、神の言葉は決して変わらないのです。では同性愛者の人は許されないのでしょうか？すべての人は罪を持っています。そして主はすべての人が悔い改め、救われることを望んでおられます。同性愛も罪であることを認め、主の助けを求めるなら、癒され、赦しがあります。実際に主に立ち返り、同性愛からの解放を求めたところ、癒され同性愛者ではなくなった人がいるそうです。神様は御子イエスを救い主として信じるすべての人を罪から解放してくださいます。

しかし罪である同性愛自体を主が受け入れることは決してありません。それでは、現在のクリスチャンは同性愛についてどのように考えているのでしょうか？アメリカのクリスチャンの半数は同性愛を受け入れているという統計もあります。同性愛者の牧師もいるという時代です。世界のプロテスタント教会の中心のアメリカにおいてそうならば、この流れは、世界的に広がっていくことでしょう。このようにキリスト教の教会においても同性愛は罪という認識がいま大きく変わり始めています。かつてのキリスト教会では考えられない時代が始まりつつあるのです。

そして「ソドム、エジプトと呼ばれる都」という言葉が黙示録にあります。なぜ新約最後の章の黙示録に旧約のソドムが出てくるのでしょうか。それはもう1度ソドムのような世界が起こる事だと考えられます。ソドムとは同性愛の町です。今、世界的に同性愛を受け入れる動きがあります。まさに世界がソドム化し始めているように見えます。

黙示録が書かれた時から2000年たちました。黙示録が遠い未来などではなく、まさに今が黙示録に書かれている終末の時代ではないのでしょうか？かつて想像もしなかった時代が始まっていることを知らねばなりません。主イエスの言われるように、時を見誤ってはならないのです。

**ロマ12：2 「この世と調子を合わせたりません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい」**

この世の流れと同じに、この世と調子を合わせていくことは、わきまえのないことであり、

神に受け入れられないことを知っておく必要があります。「この世と調子を合わせたりません。」と言われるような時代が来ています。神様は万能な方です。今の時代のように同性愛を正当化する働きが起こることは知っておられたのです。過去現在 未来を司る神様に、そのことがわからない訳はないでしょう・・・。そして、クリスチャンにとって同性愛を認めるのか、主の御言葉にとどまるのか、という大きな揺るがしが起こっています。それは神様が許可された揺るがしではないでしょうか。

**ヘブル12：26～27 「わたしは、もう一度、地だけでなく、天も揺り動かす。」**

**このもう一度ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが、取り除かれることを示しています。」**

とあります。主の言葉にとどまる、揺り動かされない者を選ぶために、あえて揺り動かすことを主はされるのです。揺り動かされるものが取り除かれるということは、いのちの書から名前が消されてしまうということです。御言葉に正しく留まるなら主の喜ばれる民として残りますが、そうでないなら永遠のいのちを失ってしまうのです・・・。今の時代は屁理屈で御言葉を変えていく時代、曲がった時代であることを知っておくべきでしょう。世と調子を合わせてはならないのです。



同性愛者用トイレのマーク

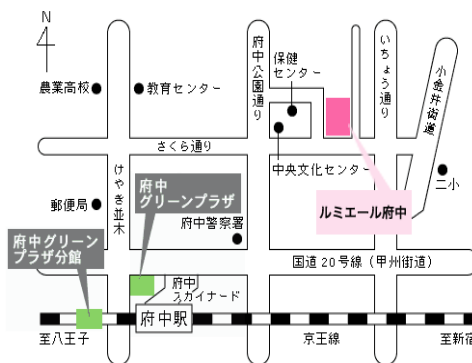
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
 午後 14:00-16:00  
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
 (tel:042-360-3311)  
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>